

施設番号 _____ 認定番号 _____ (新規 ・ 復帰 ・ 更新 ・ 区分変更)

(2022 年 月 日提出) (2017 年 1 月 1 日より 2019 年 12 月 31 日までの 3 年間の実績)

施設名(カナ) _____

(漢字) _____

住所: 〒 _____

TEL: _____

FAX: _____

日本神経病理学会評議員あるいはこれに準ずる代表者 1 名(指導管理責任者):

氏名 _____

所属・役職 _____

Email: _____

施設の概要

1. 施設分類(該当項目をチェック)

(1) 病院 医学部(医科大学)附属病院: 国立大学法人 公立大学(法人) 私立大学医学部以外の大学附属病院: 歯学部 保健学部・医療関係の大学 その他大学病院以外: 国立病院 国立病院機構 公立病院 公的病院(日赤, 済生会, 厚生連など) 民間病院(2) 研究施設 研究施設(_____)**部門・診療科** 神経病理 病理 神経内科 脳神経外科 精神科 小児神経科 その他(_____)**I. 申請する施設基準(該当項目をチェック、複数可)** A: 脳・脊髄を含む神経・精神疾患の病理学的検索を年間10例程度行い、標本作製、診断書作成、報告書作成(コンサルテーションを含む)、神経系のCPCなどを行っている施設。 A*: 院外症例の搬入剖検が可能である。 B: プリオン病の病理解剖、標本作製と診断が可能な施設。 C: 筋生検または神経生検の標本作製と診断を年間10例程度行っている施設。 D: 神経系に関連する脳外科病理の標本作製と診断、報告書作成を年間10例程度行っている施設。 E: ブレインバンクとして凍結脳組織の試料蓄積を行っており、外部への試料提供が可能な施設。 F: 主要な神経・精神疾患(運動ニューロン疾患、脱髄疾患、感染症、脳腫瘍、脳血管障害など)の脳・脊髄などの標本が500例以上蓄積され、神経病理の教育が可能な施設。 G: 神経病理認定施設を標榜するのにふさわしい十分な機器を備えている施設(実験病理、獣医神経病理、などを含む)。 H: 法医学に関連する神経系の検索、診断書、報告書作成(コンサルテーションを含む)が可能な施設。

II. 神経病理教育指導とスタッフの現状

教育指導が可能な医師、獣医師、研究者、技術員の所属・職名(上記指導管理責任者を含む。常勤は週4日勤務、週32時間以上勤務)

	氏名	所属・役職	常勤/非常勤	屍体解剖資格の有無	他学会の専門医・指導医
1			常勤/非常勤		
2			常勤/非常勤		
3			常勤/非常勤		
4			常勤/非常勤		

III. 神経病理の実績

(1)	3年間の神経病理検索数の実績	2017年	2018年	2019年
A	脳・脊髄の剖検実施総数	例	例	例
	院外からの搬入剖検数	例	例	例
	ホルマリン固定脳の検索総数	例	例	例
	病理診断の内容(検索脳全体)			
	a 神経変性疾患、精神疾患 (内訳)	a 例 (内訳)	a 例 (内訳)	a 例 (内訳)
	b 神経免疫疾患	b 例	b 例	b 例
	c 感染症	c 例	c 例	c 例
	d 脳腫瘍	d 例	d 例	d 例
	e 脳血管障害	e 例	e 例	e 例
	f その他	f 例	f 例	f 例
B	プリオン病剖検数	例	例	例
C	筋生検数診断数	例	例	例
	末梢神経生検診断数	例	例	例
D	神経系外科病理数(院内症例/院外症例)	例/ 例	例/ 例	例/ 例
E	ブレインバンクの凍結試料蓄積数	例	例	例
F	神経・精神疾患の脳・脊髄の標本総数	例	例	例
G	研究機器を備えている施設(実験病理、獣医神経病理など)	内容		
H	法医学に関連する神経系の検索	例	例	例
(2)	検討会の実績	2017年	2018年	2019年
	神経・精神疾患剖検例の臨床病理検討会	例	例	例
	外科病理検討会	例	例	例
	その他, 特別な conference の名称と回数	回	回	回

IV. 3年間の神経病理に関連する学会活動

	2017年	2018年	2019年
日本神経病理学会総会	題	題	題
日本神経病理学会地方会	題	題	題
日本脳腫瘍病理学会	題	題	題
日本神経学会総会	題	題	題
日本病理学会総会	題	題	題
日本精神神経学会	題	題	題
日本老年精神医学会	題	題	題
日本認知症学会	題	題	題
日本小児神経学会	題	題	題
その他、神経病理に係る 演題を出した神経疾患関 連学会	題	題	題

V. 貴施設の特徴、および診療・教育・研究に関して特記したい項目があれば簡単に記述してください。

.....

.....

.....